



子どもたちの靴箱から運動場に降りる階段の横で、桜の苗木を育てています。今、桜の葉は、真っ赤に紅葉しています。今年は紅葉の時期が遅いようですね。

朝晩寒くなってきました。毎朝、校門のところで立っていますと、はく息を白くして自転車や徒歩で通学してくる子どもたちと顔を合わせます。あいさつのあと、「寒くなったなあ。」「手袋はめてなくて大丈夫かい。」という会話が続きます。続けて、バス通学してくる子どもたちに手振りあいさつをします。バスの中から元気に手振りをしてくれるみんなの様子を見ることができると、寒さを忘れれます。寒い朝、子どもたちからあたたかさをもたらしている私の大切な時間です。

空に雲が無く、晴れている朝は寒さが厳しいです。そんな日、校門で登校してくる子どもたちを待っていると、今しか感じられないことに出会うことができます。

滴（しずく）の音。その正体は。

空が晴れていると、昼間に暖められた地面のぬくもりは夜の間には空へ、宇宙へと逃げていきます。そうすると、晴れている日の朝は、太陽が出るまで冷え続けることとなります。この時期は霜（しも）が降りますね。寒い朝、起きて外へ出てみたら、辺り一面真っ白だということがあるでしょう。

最近、午前7時45分頃に校門で立っていると、滴（しずく）が次々に地面に落ちる音がするのです。空は晴れています。雨は降っていません。なぜ滴が地面に落ちる音がするのだろうと周りを見渡してみたとき、山から顔を出してきた太陽の光が私の顔を照らしたので、「わ、まぶしい。」と思いました。同時に、太陽の光のぬくもりも感じました。そのとき、滴の音の正体が分かりました。

屋根に降りていた霜が、太陽の光を浴びて溶かされます。霜は氷ですから、光の熱で溶かされた霜は水となり、屋根を伝っていき、地面に落ちているのです。はじめは「ぽつ。ぽつ。」そのうち「ぼたぼたぼた。」勢いのよい音が聞こえます。でも、この音は長く続きません。5分も経つと、はじめのような「ぽつ。ぽつ。」となり、最後には音が消えてしまいます。

とても短い自然の演奏会です。

みなさんも、この時期しか味わえないあなただけの楽しみを捜してみたいはいかがですか。

2024年度「人権標語」

【吉野町内の児童生徒の作品から】

- ・だいじにするね みんなからの ぽかぽかことば
- ・みんながいる ほっとできる ぼくの教室
- ・みんなが楽しい日 その日は わたしの楽しい日
- ・やさしくされたら やさしさかえす みんなで回そう 思いやりのリレー
- ・おはようで 広がる笑顔 元気なあいさつ
- ・よく見て聞いて すてきな笑顔と笑い声
- ・ありがとう うれしさあふれる 愛言葉
- ・認めよう 周りの「好き」も 自分の「好き」も

吉野町人権擁護委員の皆さまが吉野さくら学園に来校され、人権標語のポスターと、全児童生徒に人権を大切にしようとの意味を込めた鉛筆と消しゴムをくださいました。ありがとうございました。

2024年12月4日～12月10日は、法務省が「第76回人権週間」と定めています。各地域で人権に関わる取組が行われています。

人権に関わる問題の解決には、私たち一人ひとりが、人権に関わる問題を自分のこととしてとらえ、お互いの人権を尊重し合うことが大切だという認識を深める必要があります。吉野さくら学園では、人権週間にかかわらず、いろいろな機会を通じて人権意識を高める活動を、学年に応じてすすめています。ときには立ち止まって考えるときもあります。考えることを通じて、人権意識がさらに高まっていきます。

みんなが楽しいと思える学校。自分を大切にするし、周りの人も大切にする学校。こんな学校をつくりたいと、みなさんも、先生方も思っています。いい学校づくりのために、これからも力を出し合っていきましょう。